

第1回宇部市立保育園のあり方検討委員会議事録【要約】

●日時：平成27年6月29日（月）18:00～20:20

●会場：宇部市役所 2階 第3会議室

【議事】

(1) 宇部市立保育園の現状について

(事務局)

資料にそって説明

宇部市の未就学児の状況、宇部市内保育園の入園児童数の状況、宇部市内の保育・教育施設の状況、宇部市立保育園、公立保育園が実施している主な保育等、コスト比較、検討課題

(委員)

運営にかかる経費について、保育園の園児1人当たりの公立と私立それぞれの金額はないか。

(事務局)

平成25年度決算額で園児1人当たり、公立(月額)91,127円/人、私立(月額)87,899円/人である。

(委員)

資料の7頁を見ても、一時預かりや休日保育、障害児保育等の実績から公立保育園は頑張っていると言える。公立は経済効率を考えなくていいので、できる部分もあるかもしれないが、公立が担っている部分は大きい。

(委員)

経費を安くあげれば何でもいいわけではない。質の高いことをしようとすれば経費がかかるということは念頭に置いておかないといけない。建て替えを考えれば、確かに、公立保育園として建て替える場合と民間に任せて建て替える場合とでは経費は大きく違う。だからと言って、建て替えを民間ですとした場合、株式会社が参入してきてそちらに任せることには、少し危機感を持つ。

(事務局)

保育の質と量を確保し、より良くできる前提のもとに公立保育園のあり方を考えていく。待機児童を出さないことが基本的な考え。公立も私立も同じような保育の質であることが前提。その中で、公立保育園のあり方を考えてほしい。経済的なことだけを考えているわけではない。

(委員)

公立は障害児保育を頑張っている。私立より公立のほうが、保育士の勤務年数が長く、公立の特色として障害児保育に力を入れてきた。公立から私立に移っても、保育の提供としては維持してほしい。子どもの人数のピークは平成29年頃と言われている。建物が老朽化していると言っても、耐用年数までもう少しある。確かに、保育を必要とする乳幼児は増えているが、子どもが少なくな

る時期までもう少し様子を見て、私立保育園に少しずつ受け入れ児童を割り振れば、待機児童を出さないでやっていけるのでは。

(2) 今後のスケジュールについて

(事務局)

資料に沿って説明

最終的には、10月を目途に提言を提出していただく。今後、月1回程度、テーマを絞りながら各回で議論していただく。

(委員)

急ぎすぎではないか。なぜこんなに急ぐ必要があるのか。

(事務局)

公立保育園のあり方については、市としては、数年来検討してきたものであり、1つの目標として、期間を設定した。今後、提言を受けて、市として判断していく必要があることから、次年度以降の対応も踏まえながら検討のスケジュールを設定させていただいた。

(委員)

確かに、他市では民間委託の動きも前からある。本市が遅いくらいなのかもしれない。

(委員)

民間委託とは公立から私立へと考えているのか。県内では、株式会社の参入がでてきている。現在、保育を提供されている私立保育園はどう考えておられるのか。

(委員)

株式会社は利益主義。株式会社が入ってくることにかなり危機感を持っている。

(委員)

株式会社の参入もないとは言えないので、慎重に進める必要がある。

(委員)

参入したが儲からないので手を引いた例もある。しかし、手を挙げてくる事業所はあるかもしれない。今まで、保育・教育を提供されてこられた市内の私立保育園・幼稚園で、少しずつでも受け皿となっていければいいのではないか。耐用年数が来るまでに体制を整備出来たら。

(事務局)

公立・私立を含めて、しっかりとした公的保育を提供する責任は市にある。保育の質と量を確保し、より良くしていくことを前提のもとで、民間へのシフトも含めて、公立保育園のあり方を検討してほしい。

(委員)

職員の処遇はどうなるのか。正規職員と臨時職員がいると思うが、受け皿はあるのか。

(事務局)

宇部市として正規職員の雇用に対して責任を果たすことは当然。市側がしっかり受け止める。

(会長)

検討を進めるスケジュールが少し早いなどは私も思う。大学の男子学生は、「保育士となるなら待遇の面から公立しかない。」という意見が多い。まずは私立の保育士の待遇改善が必要なのでは。保育園の問題を考えるにあたっては、小学校統合や認定こども園などの観点から、市として総合的に考える必要がある。保育や教育は人材育成、しいては、まちづくりまで総合的に考えていかなくてはならないのではないか。

(副会長)

保育の質と量の確保と言われるが、保育の質をどのように考えているのか具体的に見えない。質をどのように考えるかをきちんと示す必要がある。量であれば、ニーズに対応するということが、預かることだけでいいのか。落ち着いて保育ができる環境づくりをどのように確保していくのか。

(委員)

市としては、どういう方向性でどういう案を持っているのか。具体的に示してほしい。

(事務局)

保育の質とは、例えば、障害児保育で公立が多くを引き受けている部分、また、休日保育のように公立のみで行っている保育などの部分など、現在、公立保育園が担っている保育の部分の質を落としてはならないと思っている。将来、民間へのシフトとなる場合にも、保育の質と量を確保した上での移行が必須。保育の質と量を確保した上でよりよくできる確認が取れないまま、民間へシフトしていくことはない。

(会長)

本委員会での議論は、公立のあり方を議論するのか。それとも、私立への移行を主に協議するのか。市として、経費だけでなく、保育の質をどう考えているのか。民営化するなら、どういう形態を考えているのか。民営化に向け公募するなら、市としては株式会社を全否定することはできないであろう。これらを示していただかないと、議論の持っていく場がばらばらになる。毎回、議論の焦点を絞って協議したほうがいい。

(事務局)

保育の質と量を確保し、よりよくできるという前提のもとで、民間へのシフトも含め検討していただきたい。公立保育園の方向性を考えるにあたり、何を考慮すべきかが議論の中心となると考えている。

(委員)

公立・私立の保育園、私立幼稚園もすべて利用したことがあるが、どこも良かった。保護者が我が子を預ける選択肢の1つとして、公立保育園は存続してほ

しい。障害児の受け入れは、一昔前は公立保育園が受け皿となっていた。集団保育の可能な障害児は、障害児施設だけでなく、地域の集団保育の場に出ていくべきだと思う。自分の子は公立保育園で受け入れてもらった。公立保育園には公立保育園の良さがある。以前にも公立保育園の方向性について問題となったことがあるが、先生が安心して働けるような状態であってほしい。

(委員)

園を選ぶ理由は、保育士の人柄と園の保育方針。公立保育園のあり方として、モデルとしたい具体例があれば示してほしい。成功例・失敗例といった具体的なものを見せていただきたい。未就学児童が減っていく中、保護者に宇部市の保育園を利用したいと思ってもらえれば、宇部市への移住にもつながるのではないか。

(委員)

保育士として働き始めたころは、公立が乳児保育を担っていた。今は、公立・私立にかかわらず乳児を受け入れている。公立保育園の存続の意義として、公立保育園として今まで何をしてきたかを明確にしていく必要がある。子どもに寄り添える保育を行うには、人的な環境づくりが大きな役割を占めると思うが、それには時間とコストがかかる。

(委員)

子どもたちの幸せをまず考える。営利を考えない公立の立場だからゆとりを持って対応できてきたところもある。障害児の対応には職員の質と量が必要。入園している子どもたちの幸せを支えていけるような環境が必要。いろいろな立場のいろいろな仲間が子どもたちを支える環境づくりを支えていくことができれば。

(会長)

今日は、いろいろな意見を出しておいてもらい、次回以降、議論をしていく。事務局には、今日の意見を受け取って、今後の対応も考えてほしい。

(3) その他

(事務局)

質問等について

検討に係る質問があれば事前に提出していただき次回会議で回答

次回の会議の日程調整

次回開催 平成27年7月27日(月) 18時～